

活動テーマ

地域の学生への介護福祉初任者研修の実施

～「地域福祉・介護」への興味・就労意欲の促進を働きかけ、
福祉教育に貢献する～

茨城県

社会福祉法人 尚生会

〒309-1611 笠間市笠間1635-2 TEL. 0296-73-5562 FAX. 0296-73-5563

取り組み内容の
ポイント

福祉人材の育成と子どもたちの教育への地域貢献事業として、夏休み期間中の地元高校を会場に生徒への「夏休み介護福祉初級講座」を実施した。
全課程修了者には、法人から修了証を授与している。

活動内容

- 活動開始年
平成26(2014)年7月
- 活動の対象者
施設周辺の地元高校生
- 活動の頻度・時間
夏休みを利用した全課程3日間(3時間×3日間)の設定で、実施希望高校3校により計9日間(3時間×9日間)実施

法人設立年

昭和62(1987)年

法人実施事業

①経営施設数合計：8施設(本部事務所含)

②経営施設・事業【種別毎の数】：

- | | |
|-------------------|-----|
| ・介護老人福祉施設(短期含) | 3か所 |
| ・訪問介護 | 2か所 |
| ・訪問看護 | 2か所 |
| ・訪問入浴介護 | 2か所 |
| ・通所介護 | 2か所 |
| ・認知症通所介護(併設型、共用型) | 4か所 |
| ・グループホーム | 2か所 |
| ・居宅介護支援事業所 | 2か所 |

法人の理念・経営方針

多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより利用者が個人の尊厳を保持しつつ、施設や地域社会において自立した生活を営むことができるよう「安心と責任」を理念としてサービス向上を目指し、以下の4つの基本方針のもと社会福祉法人としての使命を全うすべく事業を推進しております。

- 利用者の人権、意思の尊重
- 契約に基づく介護サービス
- 常に目配り、気配り、心配り
- 社会への還元地域への貢献

取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- | | |
|--------------|---------|
| ①定款記載の有無 | 記載していない |
| ②事業報告・計画への記載 | 記載している |

取り組みを実施している施設の概要

【施設名】

- ・特別養護老人ホームかさまグリーンハウス
- ・介護老人福祉施設グリーンハウスみと

【施設種別及び利用定員】

- ・特別養護老人ホームかさまグリーンハウス 入所50床、短期10床
- ・介護老人福祉施設グリーンハウスみと 入所90床、短期10床

活動実施の背景、実施にいたった理由

高齢者の介護サービスは、平成12(2000)年から始まった介護保険制度による他業種の参入により、サービスの充実が図られている一方で、超高齢社会を迎えさらなる要介護(支援)者、認知症高齢者の増加が見込まれており、高齢者世帯の増加、世帯構成の変化による家族機能の低下、地域との連携の希薄化等、介護保険制度だけでは対応しきれないさまざまな課題を抱えている状況となっている。また2025年問題も控えており、100万人の介護人材が不足すると見込まれている。

そうした状況下で、景気回復と生産年齢人口の減少も重なり、福祉部門への就業希望者数が減ってきており、雇用に苦勞する施設が増加している。

そうした背景は我われの法人地域でもみられており、サービスの担い手である介護人材が不足しているという社会全体の問題を、地域単位で解決する方法のひとつとして、「体験教育」から興味を見出し、家族介護への意識と仕事としての介護の魅力を伝える場として、「夏休み介護福祉初級講座」を企画した。

実施内容

法人の設定する介護講座（介護職員初任者研修、法人新人研修）に準じて実施している。

①「福祉、介護の仕事とは」

- ・介護保険とは（介護保険パンフレット）
- ・介護の仕事とは（DVD鑑賞）

⇒福祉サービス（高齢者、障害者、児童等）の分野から、高齢者を中心に「介護保険制度」を説明する。また、将来の介護の仕事をイメージできるように、キャリアアップについて説明する。

②「高齢者介護体験」

- ・「高齢者の身体」（シルバー体験キット、紙おむつ）
- ・介護予防（運動、脳トレ）
- ・介護実技（移乗移動介助等）、車いす、福祉車輛の説明

⇒加齢に伴う心身機能の低下を説明し、実際に体験キットで体験してもらう。

また介護用品や福祉車輛にも直接手を触れて介護方法とともに説明する。

③「認知症ってなあに？」

- ・認知症講座（茨城県認知症介護指導者よりグループワーク形式の講義演習）

⇒ニュース等でも話題となっている「認知症」について、認知症の方との接し方、予防方法等もふまえて説明する。

活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

今年度が初回の取り組みとなったが、「介護職員初任者研修事業（前：訪問介護員養成研修事業）」及び小中学校への福祉体験授業の経験もあり、企画及び講師を務める職員の意識は高いものがあつた。

初回企画ということで、当初は広報せずに施設近隣の2校（2市）にお願いしていたが、話しを聞いた地元高校からの希望もあり、合計3校（2市）で開催した。

参加者は各高校1～3年生、場所は夏休み中の教室等で1日3時間の講義を3日間で実施、全日程を出席した生徒には修了証を授与するといった形式で実施した。就職する者もいれば、先々の生活の役に立つと思って受講した者、

先生に勧められた者と色々だが、参加した生徒それぞれの気づきもみられ、修了証を受け取った生徒には満足そうな表情が見てとれた。

また、夏休み職場見学への参加希望者の増加、高校のホームページでの紹介とともに、次年度の開講希望、就職の資格取得に向けた「介護職員初任者研修事業」への参加希望等、教育及び就労希望への貢献を感じられた。

今後の展開

講師の反省として挙げられたのが、「興味をもってもらうことが一番」というテーマで講義内容を見直すことの必要性である。専門性に特化した講義より、高齢者体験等の実技が一番興味を惹いていたことに着目し、内容を見直していく。また、今回は参加がなかったが、先生や生徒の保護者にも参加いただき、一緒に考えたり体験することで、共通の話題づくりとなるといいか考える。

特養3施設の3市において、多くの高校との連携を深めるためにも開講数を増やすとともに、さらに若い中学生対象講座を企画することで、成長過程の若いうちから「介護・福祉」は生活の一部として身近で親しみやすいものと捉えてもらうとともに、魅力ある仕事として興味をもってもらいたい。それが、将来の介護人材を育むための種まきとなるよう、貢献事業を継続していきたいと考えている。

主な経費や財源及び人員など

※年間あたり

主な経費(支出)	経費概算額	主な財源(収入)	財源概算額
事務消耗品	1,728円		0円
	円		円
合計	1,728円	合計	0円

- ・取り組みに係わった職員数 3名
（職種等：居宅介護支援専門員、特養生活相談員、本部職員）
- ・取り組みを実施している施設の事業規模
（平成25年度決算の事業活動収入） 344,852,239円
※法人全体の事業規模（同上） 1,325,197,056円



「福祉・介護の仕事とは」



「高齢者介護体験」



車いす体験